



平成 26 年度 IYEO チャレンジ・ファンド助成事業

第 1 回

自然体験親子キャンプ

自然体験親子キャンプ実行委員会

平成 26 年 10 月 18 日 (土) ~19 日 (日)、茨城県立中央青年の家 (茨城県土浦市) にて「第 1 回自然体験親子キャンプ」を開催しました。参加者は親子参加 7 家族 19 名、ボランティアリーダー 19 名の総勢 38 名となりました。

キャンプ中、野外炊事、キャンプファイヤーやテント泊、地域理解研修としてパンボン (日立製作所発祥の球技) 等を行いました。日常とは異なる体験を通して親子の絆をより深めるとともに、大自然の中で野外活動の楽しさを満喫する 2 日間となりました。日頃、都市ではなかなか触れることのない深い自然を体験し、親子で参加しお互いに学び合うことで家とはまた違った相互のかかわりを見ることができました。「筑波の自然の中でいつもは学べない何かを見つけよう。」という目的のもと、キャンプに参加した子供たちだけでなく、参加したリーダー、保護者たちにとっても、新しい発見の連続でした。そして大自然を教育のツールとして活用し、会議室とは異なる環境下でより効果的な社会教育を行うという意図も達成されました。

【自然体験親子キャンプ実行委員会・実行委員長 福田達男】

この事業は、IYEO と公益財団法人修養団 (SYD) いばらき支部が実行委員会に共催する形をとって、IYEO が持つ国際感覚と SYD が持つ青少年指導のノウハウを融合するという、新しい形の事後活動となりました。多国籍・多世代 (幼児から大人) の参加者、IYEO 青年、SYD 青年が、大自然の下で行ったこの事業は、会議室で研修を行うよりも遙かに学びあいの効果が大きかったものと思います。今後も世代間の学びあいを重視した事業を継続的に行ってきたいと考えています。

【参加者の感想】

この 2 日間、人生で初めての体験や、驚く発見をたくさんしました。短い間でしたが、親子の様々な愛のカタチを、いろんな場面で見ることができました。私も昔、たくさん甘えて、やんちゃして…その都度、親や周りの人に愛をもって育ててもらったのだなと思いました。今さらですが、手のかかったであろう私を育ててくれた親に感謝を伝えてみようと思いました。(IYEO 会員、大学 4 年生、ボランティアリーダー)

短くもギュッと楽しさが詰まったすてきな時間を過ごすことができました。息子はのんびり屋なのですが、竹を一人で最後まで切ったり、彼なりに責任感を持って村長を務めたりするなど息子の成長を目の前で見られて嬉しかったです。どんどん成長していく息子を見逃さないよう、一緒に過ごせる時間を大事にしようと思いました。(一般、保護者)

普段の生活では出会えない、本当にすてきな皆さんと出会えたことが私の宝です。この親子キャンプでほほえましいと思った瞬間は、参加した親子が自分の親や子どもにべったり、というのではなく、小さい子どもさんを他の家庭のお父さんが見守っていたり、子供達同士でも助け合ったりする場面を多く見られたことです。「普段できないことができて楽しかったね」だけではなく、あいさつや規律など締めるところは締める、遊ぶ時は遊ぶといった「社会教育」が重視されていたことがとても良かったと感じました。スタッフだから、大人だからできて当たり前ではなく、その「経験から学ぶ」「(子どもも含めて) 人から学ぶ」ということがすごく大切なのだと感じました。(一般、社会人マネジメント・ディレクター)

【日程】

10月18日 (土)	
11:00	茨城県立中央青年の家 着
11:30	開会式
11:40	昼食 (村毎に)
12:00	テント設営
13:30	野外炊事 (竹飯盒炊飯、バームクーヘン、アイスクリーム作り等)
17:30	夕べの集い
18:00	夕食
19:30	キャンプファイヤー
22:00	就寝 (テント泊) ※就寝後リーダー会議を実施
10月19日 (日)	
6:00	起床
6:30	朝の集い (地域理解プログラムとして「茨城県民の歌」を歌う)
7:00	野外炊事・朝食 (朝食後テント撤収、美化活動)
9:00	村別研修 (ハイキング、パンボン等)
11:20	閉会式・集合写真
12:00	現地解散・バス出発

*村について
このキャンプでは参加親子とリーダー7名前後で構成される「班」のことを、国の住民自治の最小単位である「村」と呼び、村毎に生活をしています。村毎の活動については村長 (村のまとめ役) を中心にみんなで話し合って内容を決めています。

